

# ドラ2古谷 極意指南

江陵高  
野球部

## 浦幌の小学生と交流

【浦幌】夏の高校野球北海道大会ベスト4の江陵高校野球部（幕別町、谷本献悟監督）が10月30日、浦幌町民球場で、浦幌ベアーズ野球少年団（16人）にコーチした。

同球場には両チーム関係者

「楽しさ味わって」

ら40人が集まった。同野球部の西田つばさ部長と、工藤遼太郎投手（2年）が浦幌出身という縁で、昨年に続き少年団と交流。ドラフト会議で福岡ソフトバンクホークスから

手（3年）も参加し「野球の楽しさを味わって」とあいさつをした。

2位指名を受けた古谷優人投手（12）が代表し「1日、よろしくお願いします」とあいさつをし練習を開始。高校生と小学生が鬼ごっこでウォーミングアップ、キャッチボールをした。小学生は守備練習で、捕球態勢の入り方、送球のこつなどを教わった。浦幌小5年の佐藤龍君（11）は「すごく楽しい。空振りには気にせず思い切って振ってと言われた」と喜んだ。

小学生が見守る中、高校生が守備練習を披露。外野からホームや中継への送球の速さや正確さに、小学生から驚きの声が上がった。デモンストレーションで次期エース候補の工藤投手と、プロ入りする古谷投手がピッチングを披露。小学生や父母が見つめる中、ストリートやスライダー、フォークなどを投げ込んだ。谷本監督は子どもたちに「誰にでもプロになれる可能性がある。頑張って」と激励。古谷投手に握手をしてもらった小学生は、とびきりの笑顔を見せた。（広橋基嗣通信員）



古谷投手（右）と握手をする小学生

小学生が見守る中、高校生が守備練習を披露。外野からホームや中継への送球の速さや正確さに、小学生から驚きの声が上がった。デモンストレーションで次期エース候補の工藤投手と、プロ入りする古谷投手がピッチングを披露。小学生や父母が見つめる中、ストリートやスライダー、フォークなどを投げ込んだ。谷本監督は子どもたちに「誰にでもプロになれる可能性がある。頑張って」と激励。古谷投手に握手をしてもらった小学生は、とびきりの笑顔を見せた。（広橋基嗣通信員）